

3. 試験結果

図-3.1 は液状化強度曲線である。液状化強度は、繰返し回数 $N_c = 20$ 回で両振幅軸ひずみ $DA = 5\%$ に達する時の応力振幅比として求めた（以下、繰返し三軸強度比 RL ）。相対密度 90% に対する廃ガラスカレット A 材料、B 材料の繰返し三軸強度比は、いずれも 0.28 程度となり、粒度調整による影響は比較的少ない結果となった。

なお、図-3.2 は豊浦砂に対する相対密度 $Dr = 70\%$ の液状化強度曲線を示したものであるが、繰返し三軸強度比は $0.21 \sim 0.15$ の範囲内に分布しており、密度状態は異なるものの豊浦砂と比較すると廃ガラスカレットの繰返し三軸強度比が大きく、液状化しにくい傾向にあることが分かる。

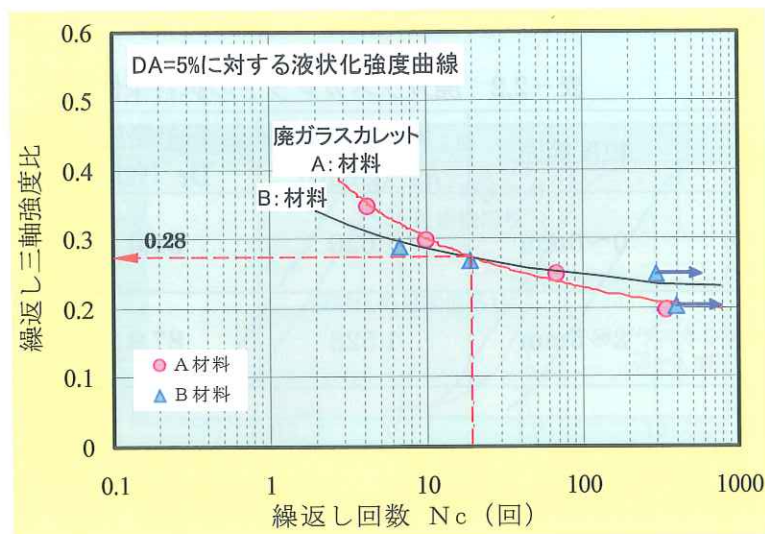
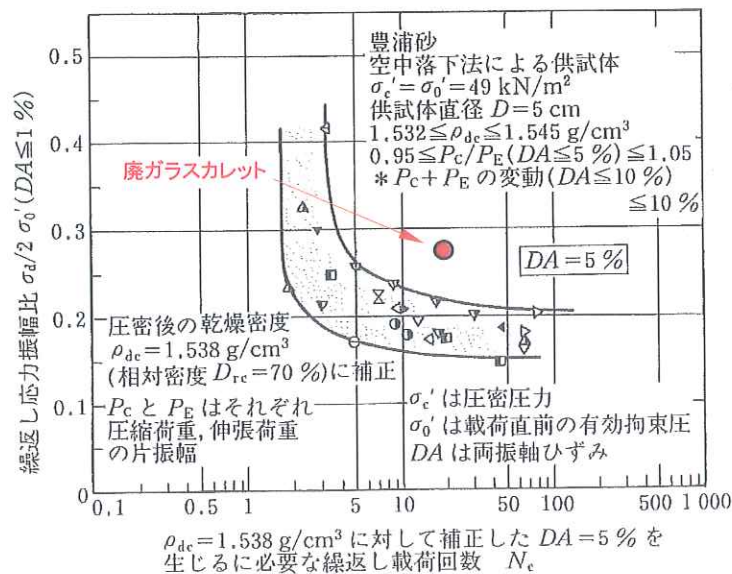


図-3.1 液状化強度曲線（廃ガラスカレット）



仕様を統一した全国一斉試験結果の例

図-3.2 液状化強度曲線（豊浦砂）

〔地盤工学会編 土質試験の方法と解説より抜粋〕